

## 第5章 文化財の保存・活用に関する課題と方針

### 1. 「文化財を知る・把握する」に関する現状と課題

#### 【現状】

#### ①文化財調査

日野町内の文化財調査の多くは、鳥取県の総合調査によるものです。調査分野ごとに見ると、有形文化財では建造物（民家・社寺・近代化遺産）と美術工芸品（仏像）、民俗文化財では無形の民俗文化財（伝統工芸、民謡、芸能、祭り）、記念物では遺跡（中世城館）が調査されています。

日野町が主体で行った調査は、道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（岩田遺跡、上菅荒神原遺跡、福長下モノ原遺跡、福長下モノ谷尻り遺跡、オノ原たたら跡）と、2度の町誌発刊（『日野町誌』『日野町誌続編』）のための調査があります。

一方、地域団体の活動として、伯耆国たたら顕彰会の『たたら製鉄遺跡分布調査報告書』により日野郡内の製鉄遺構が確認されているほか、黒坂鏡山城下を知ろう会が、黒坂城と陣屋、関氏、福田氏など黒坂を中心とした歴史の歩みや伝承をまとめています（『黒坂歴史めぐり』）。

このように日野町の文化財は、そのほとんどが鳥取県の総合調査に依存したもので、かつ調査から20～30年以上が経過しているため、現状を十分に捉えているものとは言えない状況にあります。未指定のたたら製鉄については、伯耆国たたら顕彰会の調査により製鉄遺構の位置などの把握が進んでいますが、多くはその存在が知られている程度で、たたら製鉄の詳細や価値、魅力などについての研究はほとんど行われていません。

表5-1 既存文化財調査の概要と成果

調査内容	調査成果となる刊行物など
日野郡の概要 現在の日野町の歴史に関する史料を多く収録している	『日野郡史』
自治体史編さんのための調査	『日野町誌』 『日野町誌続編』
近藤家住宅 近藤家文書目録 たたら製鉄遺構分布調査	『鳥取県文化財調査報告書 第24集』 『近藤家資料集（第一編～第四編）』 『たたら製鉄遺跡分布調査報告書Ⅰ』 『たたら製鉄遺跡分布調査報告書Ⅱ』
藤森神社 下菅神社 泉龍寺 正法寺	『鳥取県の近世社寺建築 鳥取県近世社寺建築緊急調査報告書』
日野町内の民家	『鳥取県の民家 鳥取県文化財調査報告書 第10集』
近藤家住宅 根雨の町並み	『鳥取県の近代和風建築 鳥取県近代和風建築総合調査報告書』
旧山陰合同銀行根雨支店 根雨駅 祇園橋 旧根雨公会堂 近藤家住宅 日野町公舎 中菅隧道 根妻隧道 黒坂発電所 送電線鉄塔 旧後谷鉾山 ふうけつ	『鳥取県の近代化遺産 近代化遺産総合調査報告書』
長楽寺所蔵仏像	『鳥取県の仏像調査報告書』
製菓作り（ネリグマ） 醤油作り	『鳥取県の諸職 鳥取県諸職関係民俗文化財調査』
労作歌 祭り歌・祝い歌 踊り歌・舞踊 座興歌 語り物・祝福芸の歌	『鳥取県の民謡 鳥取県民謡緊急調査報告書』
出雲街道 根雨宿 舟場 うなぎ池	『鳥取県歴史の道調査報告書第六集 出雲街道 法勝寺往来』
菅福盆踊り 久住神楽 根雨盆踊り 根雨の餅搗き唄 さいもん	『鳥取県の民俗芸能 鳥取県民俗芸能緊急調査報告書』
日野・黒坂・根雨の祭り・行事	『鳥取県の祭り・行事 鳥取県祭り・行事調査報告書』
日野町内の城館遺構	『鳥取県中世城館分布調査報告書 第2集（伯耆編）』
日野町内の製鉄場遺構	『鳥取県生産遺跡分布調査報告書』
鳥取県内のオオサンショウウオ	『特別天然記念物オオサンショウウオ調査事業報告書』

道路開発に伴う発掘調査	『岩田遺跡発掘調査報告書』 『上菅荒神原遺跡試掘調査報告書』 『上菅荒神原遺跡調査報告書』 『才ノ原たたら跡発掘調査報告書』 『日野町内遺跡発掘調査報告書』
-------------	--

表5-2 文化財調査の状況一覧表

類型		先史	古代	中世	近世	近現代
有形文化財	建造物	—	—	—	△	△
	美術工芸品	×	△	×	△	△
無形文化財		—	—	×	△	△
民俗文化財	有形	—	—	—	△	△
	無形	—	—	—	○	
記念物	遺跡	△	△	△	△	△
	名勝地	—	×	×	×	△
	動物、植物、 地質鉱物	—	—	△	△	○
伝統的建造物群		—	—	×	△	△
文化的景観		—	—	△	△	△
その他（ジゲのたから）		—	—	—	△	○

○:調査済 △:さらに調査が必要 ×:調査できていない —:該当なし

## ②文化財を知る機会

町の文化財の価値や魅力、歴史の歩みを知る機会は主に地域団体によって支えられ、創出されてきました。伯耆国たたら顕彰会は、日野郡を中心にたたら製鉄に関わる情報収集や調査を実施し、その内容を町内外に紹介しています。日野町公舎内には、たたら楽校として近藤家とたたら製鉄についてパネル展示でわかりやすく伝えています。奥日野ガイド倶楽部は出雲街道や根雨宿など、旧街道と宿場の風景を活かしたまち歩き等を実施し、文化財を紹介しています。黒坂鏡山城下を知ろう会は黒坂城址・陣屋跡や黒坂の町について調べ、現地の案内看板やガイド等を行っています。こうした活動は小中学校における、ふるさと学習にもつながり、児童生徒の郷土の文化財を知ることに重要な役割を果たしています。

## ③文化財に係る情報の整理

町の文化財情報は各団体や著作物等によって多く存在しますが、文化財類型に合わせて

一元的に分類・整理したものや先行研究をまとめたものは現在のところありません。

## 【課題】

### ①文化財調査の不足

域内文化財の調査は鳥取県の総合調査によって部分的に把握されています（表5-1）。しかし、分野によっては把握がほとんど行われていないものがあります。特に、美術工芸品、無形文化財、名勝地、伝統的建造物群についての把握が不十分です。美術工芸品は古文書の調査ができていません。域内の古文書の所在確認と内容把握が必要です。無形文化財は既存の調査では「製菓作り」「醤油作り」しか確認されていません。域内の伝統技術の歴史や継承状況の把握が必要です。名勝地はこれまでほとんど調査されたことがなく、域内に見られる特徴的な自然地形や希少性の再認識、また旧家に見られる庭園などの所在調査が必要です。伝統的建造物群は、主に黒坂・根雨・板井原などについては城下町や宿場町の歴史文化の面影を垣間見る建造物が残されている可能性があります。その他の地域についても、町並みや建造物はその地域の歩んだ歴史の特徴を現わしているものがある可能性があります。こうした地域固有の歴史文化と歴史的建造物など、一体的なつながりが残る場所の把握調査が必要です。

また、本町の歴史文化を物語る関連文化財群（第7章詳述）を切り口にした文化財調査もほとんど行われていません。特に、黒坂城址・陣屋跡、たたら場、長楽寺や長谷部信連に関することについて調査を実施し、さらなる価値の把握が必要です。この調査を通し、それぞれの文化財群、そして本町の歴史文化のより一層の把握につなげることが必要です。

地域に点在する未指定文化財は、若年層の転出や少子高齢化によって、未確認のままの放置、あるいは散逸、損壊などが懸念されます。早急に、地域にどのような文化財があるのかを確認する必要があります。所在状況の確認、調査研究及び価値付けが急がれます。

### ②文化財に関わる情報発信と学ぶ機会の創出が不十分

現在、日野町内の文化財について地域住民がその内容を知る機会（イベントや講座など）が多くはありません。また、かつて日野町の文化財を調べ、それらを講座で発表するなどの活動を行っていた地域団体も高齢化により活動がなくなりました。文化財について定期的な情報発信と学ぶ機会を設定していくことが必要です。

### ③文化財の情報が未整理

日野町内にある文化財を網羅したデータベースがなく、知りたい情報を得られなかったり、住民からの問い合わせに対して誰でも回答できる状況になく、本町の歴史を伝える機会を逸したりすることがあります。また、各分野の研究状況などをまとめたものがデータ化されていないことも課題です。日野町に存在する文化財や歴史資料、調査内容などを整理し、有効に活用できるようにデータベース化をしていくことが必要です。

## 2. 「文化財を守る」に関する現状と課題

### 【現状】

#### ①文化財の指定・登録

日野町では、文化財保護法、鳥取県文化財保護条例、日野町文化財保護条例などにより、文化財の保護が図られてきました。現在、日野町内には、国重要文化財が3件（美術工芸品）、県指定保護文化財が5件（建造物、動物・植物、遺跡）、町指定文化財が3件（建造物、美術工芸品）、国登録文化財が2件（建造物）存在します。

建造物では、平成30（2018）年に近藤家住宅が鳥取県指定保護文化財になり、昭和54（1979）年に本陣の門が日野町指定有形文化財になりました。美術工芸品では、大正9（1920）年に長楽寺の薬師如来像、毘沙門天像、不動明王像が国重要文化財に、昭和54（1979）年に泉龍寺の因幡二十士遺品が町指定有形文化財になっています。植物・動物では、昭和57（1982）年に聖神社社叢、昭和59（1984）年に根雨神社社叢、さらに昭和61（1986）年に荒神原のオオサンショウウオ生息地が県指定天然記念物になり、令和元（2019）年には都合山たたら跡が鳥取県指定史跡になりました。国登録有形文化財としては、平成9（1997）年に日野町歴史民俗資料館（旧根雨公会堂）が、平成29（2017）年に佐々木家住宅が登録されています。

#### ②自治会や集落の活動

自治会の活動として、菅福自治連合会が都合山たたら跡へと通じる道の草刈りなど、環境整備を毎年行っています。また、平成14（2002）年には25年ぶりに伝統行事「ほとほと」を再開させるなど、地域のつながりを意識した活動をしながら、伝統行事を継承していくことにも力を入れています。

しかし一方で、地域によっては年々の人口減少や少子高齢化等によって、自治会や集落での行事・活動が簡略化を余儀なくされたり、無くなってしまう状況があります。

#### ③文化財の修繕・整理

指定・登録文化財は経年による破損等が生じ、その都度修繕等を実施してきました。

平成12（2000）年の鳥取県西部地震発生により破損した文化財については、指定・登録以外の重要なものについても修繕等を行いました。また、この地震による歴史資料の散逸を防ぐために、町内文化団体や有識者によって、個人宅に残されていた歴史資料の一時避難の呼びかけがなされました。これらは歴史民俗資料館や鳥取県立日野高等学校黒坂校舎（現黒坂施設）に持込まれ、後年、ボランティアの手により、整理作業と目録作成が行われています。



歴史資料整理ボランティアの活動

### 【課題】

#### ①指定・登録による保護措置が不十分

町指定文化財について、昭和 54（1979）年指定以降一件もなく、長期にわたって文化財の指定による保護措置が行われていません。改めて、日野町にとって重要な文化財の把握と保護措置の検討、必要に応じた文化財指定をしていくことが求められます。

また、国登録文化財制度についても活用し、町域の有形・無形文化財の保護が必要です。

#### ②自治会・集落の地域活動減少の懸念

人口減少や少子高齢化等に起因して自治会や集落での地域活動が簡略化や減少の懸念があります。このことは、これまで行われてきた行事や文化財に関わる活動の減少にもつながる恐れのあるもので、将来的には郷土の文化財の滅失や忘れ去られてしまうことにもつながってしまうものです。地域によっては地道な継承活動をされているところもありますが、伝統行事や文化財の保護等に取り組もうとされている地域や団体に対して、行政からの積極的な支援を行うことで地域の人々が集まる機会を醸成し、様々な活動が持続的なものとなったり、後世に語り継がれていくものとなるようにすることが必要です。

#### ③歴史民俗資料館の資料保管環境が未整備

歴史民俗資料館には、平成 12（2000）年の鳥取県西部地震後に、個人宅に残されていた歴史資料が多く運び込まれました。その資料の整理は未完了の状態で、現在、資料館の収蔵スペースを超える量が保存されています。歴史資料を震災から守ることはできましたが、現在の保存状態は決して良好なものとは言えず、資料館本来の保管、展示という機能を発揮することができていません。資料の収集・保管方針を定めて、遺物、古文書など広く歴史的資料を収集・保管し、展示、公開することで多くの住民に利用していただけるようにしていかなければなりません。

#### ④歴史民俗資料館の資料整理が不十分

歴史民俗資料館に所蔵している資料の適切な整理・保管ができていません。整理が不十分なために、所蔵資料の所在が明確ではなく、紛失等の原因にもなりかねないので、改めて明確な所在の把握と整理が必要です。

#### ⑤防犯・防災体制が未整備

長楽寺仏像群の管理体制は24時間体制での警備システムとなっていないことや、それぞれの仏像の前に柵が設置されておらず、見学者が手を触れることができることなど、保管状況について懸念される点があります。警備システム導入、もしくは代替できる方法を検討していく必要があります。

文化財の防災について、指定等文化財については所在地などが比較的周知されているのに対して、未指定文化財の所在地は共有ができていない地域があります。文化財の所在地や現況の把握、災害時の対応を自治会と共有し、身近な文化財を守る対策や体制構築が必要です。

### 3. 「文化財を活かす」に関する現状と課題

#### 【現状】

#### ①民間団体の活動

日野町内の地域団体が文化財や歴史文化を活用したイベント等を開催しています。

伯耆国たたら顕彰会は、日野郡を中心にたたら製鉄遺跡の情報収集を進めるほか、日野町と共催し、たたら製鉄に関わる文化財を顕彰する講演会や各種イベント、ミニたたら操業等の体験活動ができる「ふいご祭り」を企画するなど、情報発信に力を入れています。また、日野町公舎（旧出店近藤）内のスペースを活用し、近藤家の製鉄事業をパネル展示等で紹介している「たたら楽校」の運営のほか、たたらを活かした地域づくりを考えるシンポジウムの開催、都合山たたら跡を活用した遺跡までのトレッキングイベントを実施するなど、日野町のたたら文化を活かしたイベントを積極的に行っています。

黒坂鏡山城下を知ろう会は、黒坂城（鏡山城）、陣屋跡の価値・魅力の普及啓発活動を行うとともに、周辺草刈り等の環境整備を行っています。

奥日野ガイド倶楽部は、旧出雲街道を歩いて根雨の町や街道筋を紹介する体験イベントや、国登録有形文化財佐々木家住宅において古民家を活用したイベント（百人一首、民話を聞く会、古民家コンサートなど）を開催するなど、宿場町や街道の魅力を発信する事業を行っています。

日野町観光協会では主に、金持地区の氏神である「金持神社」を活用した日野町の魅力発信や縁起物の販売などで観光振興を図っています。

## ②社会教育における文化財の活用

日野町公民館事業として「古文書に親しむ会」を、平成30(2018)年2月より毎月1回実施しています。日野町の歴史に関する史料を講師の指導のもと読み進め、近世黒坂を支配していた福田氏の履歴を記した古記録を解説しました。あわせて、福田家墓地や長楽寺でのフィールドワークを実施するなど、地域の歴史文化に対する理解を深めています。

### 【課題】

#### ①文化財の積極的な情報発信と活用が不十分

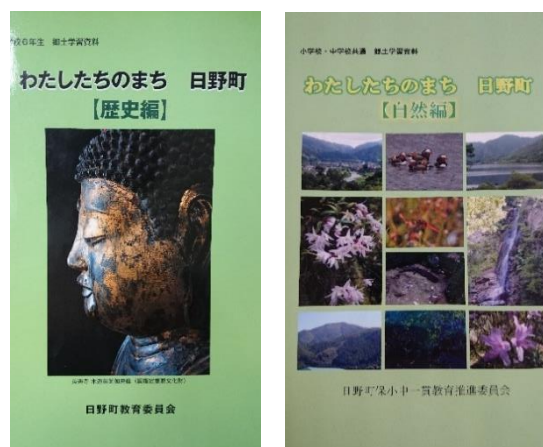
日野町の文化財や歴史文化に関わるイベント・講座などの開催が、分野によって偏りがあり、特徴的な歴史文化でもあまり知られていない状況があります。本町の多様な文化財を知ることができる各種イベントを開催し、郷土への親しみや愛着、また町外の多くの人にも関心を持ってもらうなどの活用が必要です。

## 4. 「ともに継承活動に取り組む」に関する現状と課題

### 【現状】

#### ①学校教育における文化財の活用

日野町教育委員会は、町の文化財や歴史、人物、自然環境を学ぶための副読本「わたしたちのまち 日野町【歴史編】【自然編】」を作成し、子どもたちはそれらを活用して郷土のことについて学習しています。また、実際に現地を訪れて地域の方から歴史文化を学んだり、希少な生物を観察したりするなどの活動が行われています。さらに、歴史民俗資料館で、民具などを見たり、それらに触れたりすることで昔の暮らしや現在の暮らしとの違いなどについて学んでいます。



副読本わたしたちのまち 日野町



学校でのふるさと学習の様子



## ②団体間の連携について

現在、文化財の保存は教育委員会部局教育課が担い、活用については町長部局産業振興課が担当しています。また、防災・防犯は町長部局総務課、旧山陰合同銀行根雨支店の管理、活用については町長部局企画政策課が所管しています。

行政と地域団体との連携については、伯耆国たたら顕彰会や黒坂鏡山城下を知ろう会、奥日野ガイド倶楽部等と連携して環境整備やイベント開催を実施しています。

## ③未指定文化財の継承体制について

地域にはその地を特色づける多様な文化財があり、本町の歴史文化を現しているものが多くあります。しかし、それらの所在や、守り・語り継ぐことについて行政や自治会、地域団体等が話し合い、連携していく体制が整備されていません。そのため、未指定文化財は知らないうちに行方がわからなくなったり、忘れ去られる懸念があります。

## ④行政における文化財保護専門・専任職員について

行政職員の専門員・専任職員の不在、職員体制において文化財保護を主幹する職員の不足などにより、文化財に関わる調査や各種イベントの新規開催などがほとんどできていません。また、こうした状況を通して地域団体主導によるイベント開催が多く、行政と地域団体が連携した動きが不足しています。

### 【課題】

#### ①学校教育と文化財担当課との連携不足

学習素材として文化財情報を教育委員会事務局から提供するなどの、ふるさと学習に関わる連携が不十分です。既に把握している文化財や、調査により明らかになった文化財など、文化財に関わる情報提供を行い、ふるさと学習の内容の充実化を図ることが必要です。

#### ②文化財に係る関係課・団体間の連携不足

文化財の保存・活用にあたっては、行政の各関係課の連携が不可欠です。

また、地域団体と行政との連携、地域団体間の連携などをより一層強化し、多くの人が関わりを持てる仕組みを作っていくことが必要です。

#### ③未指定文化財の保存・継承体制が未整備

地域に残る文化財を行政、地域団体、地域住民などが総がかりによって保存・継承を進めていく体制整備が必要です。文化財の所在地や価値の共有を図るワークショップを開催したり、次世代に継承するためにできることを協議するなど、地域や行政、多くの人が関わり、協力しながら取り組む体制の整備が必要です。

#### ④文化財保護専任職員の未配置

本計画の事業を推進していくために人員不足の状態を改善し、専任で携わる職員を配置して、地域や地域団体、行政がより連携を深めて本町の文化財保護を充実させていくことが必要です。

### 5. 「拠点となる場所をつくる」に関する現状と課題

#### 【現状】

#### ①文化財を保管・継承する施設

歴史民俗資料館は、小学生のふるさと学習などにおいて利用されているほか、町内外からの来館者に対して日野町内の暮らしについて知ってもらう様々な民具を紹介しています。

しかし、常設展の入れ替えなどによる企画展が近年開催されておらず、日野町の歴史文化の新たな側面を発信したり、町民にとって多様な郷土文化を知ることのできる拠点としてなかなか機能していません。文化財を収集・保管し、町民の文化的な興味関心、豊かな心を育む施設としての運営ができていません。

#### ②観光客への案内・周遊

町の特色を示した文化財がどこにあるのか、特徴的な歴史文化を体感できる場所はどこなのか、それらの情報を集積した所がありません。また、関連する文化財から歴史文化のストーリーを巡ることができる場所の案内もなかなかできていません。

#### ③歴史民俗資料館と旧山陰合同銀行根雨支店の活用の現状

歴史民俗資料館において定期的な企画展示が実施できていません。多くの民具類を保管していますが、保管や整理が不十分のために入れ替えなど、多くの資料が活用できず、文化財を知る施設としてなかなか機能させることができていません。

旧山陰合同銀行根雨支店は、根雨の歴史文化や町並みを構成する上で重要な建造物です。しかし、これまで様々な活用に関わる協議がなされてきたものの、未だ活用に至っていません。

#### 【課題】

#### ①歴史民俗資料館展示機能の活用不足

歴史民俗資料館の展示機能をより一層活かし、多くの人々が活用できるような施設として整備していくことが必要です。当館を積極的に用いて、日野町の歴史や美術、自然など郷土の歴史文化を発信するような活用方法を検討していかなければなりません。そのために、建物の状況把握や必要に応じた修繕、館内資料整理を順次進めていくことが必要です。

## ②周遊につながる案内施設が未整備

観光客が本町の文化財に関わる情報を知り、その情報をもって周遊することにつながるような案内施設がありません。町域に存在する様々な文化財や関連をもった文化財から見えてくる本町の歴史文化のストーリーを紹介する機能を持った施設が必要です。

## ③旧山陰合同銀行根雨支店が未活用

旧山陰合同銀行根雨支店の活用ができておらず、積極的な活用を行っていくことが必要です。建物を維持することにより、根雨の町並みや歴史文化を伝えるのみならず、付近の歴史民俗資料館やたたら楽校（日野町公舎）などと併せて活用し、当施設のスペースを活かして観光や交流の一拠点として整備するなどの活用が必要です。

## 6. 文化財の保存・活用に関する方針

### (1)「文化財を知る・把握する」に関する方針

#### ①域内文化財把握と価値の明確化の推進

域内の文化財について所在確認のできていないものや、所在は確認できているものの概要や詳細な内容や構造などが把握できていない文化財について調査を実施します。特に、美術工芸品、無形文化財、名勝地、伝統的建造物群について把握を進めていきます。

また、日野町の特徴的な歴史文化に関わる関連文化財群（第7章詳述）を切り口にした文化財として、たたら製鉄に用いられた道具類、舟場に残るヒヤ谷たたら、黒坂城址・陣屋跡と福田家、長楽寺と長谷部信連の由緒などについて調査を行います。既に県指定史跡である「都合山たたら跡」についても、さらなる価値を明らかにするために調査研究を行います。

#### ②文化財に関わる情報発信の強化

日野町の文化財について、ホームページや SNS などさまざまな形式において発信して町内外に広く知ってもらい普及に努めます。また、各種イベントや講座を開催して、歴史文化や文化財についてわかりやすく伝える機会を設けます。

#### ③データベースの作成の推進

文化財の概要や関係資料、先行研究等の情報をまとめたデータベースを作成・公開し、日野町にはどのような文化財があるのか、その情報を統合したリスト等でわかりやすく伝えるようにします。

## (2)「文化財を守る」に関する方針

### ①文化財の指定・登録の充実

域内文化財について、調査研究により町にとって重要な文化財と確認されたものについて町文化財保護審議会に諮問していきます。

また、旧山陰合同銀行根雨支店をはじめ、国登録有形文化財への登録を推進していきます。

### ②地域活動への支援の強化

自治会や集落の人々が集まる機会や様々な活動を通して人と人とのつながりをつくる機会を醸成していくとともに地域で集まり、文化財に関わる保存・継承活動に取り組む自治会や民間団体などに対して財政的な支援を行います。

このことによって、集落の維持・存続に向けて話し合う機会をつくっていくとともに、地域の文化財の継承につなげていきます。

### ③日野町歴史民俗資料館の資料収集保管計画作成による収集保管状況の改善

日野町歴史民俗資料館の資料収集保管計画を作成し、現在の保管状況の改善や日野町にとって重要な資料の収集保管を推進していきます。

### ④日野町歴史民俗資料館の収蔵資料整理の推進

日野町歴史民俗資料館に所蔵されている資料の中で、台帳などによる管理がなされていないものについて順次整理を行っていきます。

### ⑤防犯・防災対策の推進

防犯について懸念されている長楽寺仏像群について、その所蔵環境を再整備するために関係者と協議を進め、具体的な方策を検討していきます。

防災について、別紙「文化財リスト」をもとに文化財の所在マップを作成し、自治会、行政等がその位置の共有を図ります。それを踏まえ、「日野町防災計画」やハザードマップから、これら文化財が置かれている周囲環境を再確認し、災害予防対策を自治会や行政が連携して検討するとともに、自治会単位で座談会等を設けて文化財としての認識の共有を図ります。文化財の状況把握には、鳥取県文化財保護指導委員とも連携して進めていき、また災害時対応は、文化財防火デー等を通して消防関係者と文化財情報の定期的な共有と対応方法を検討していきます。

これらの防犯・防災対策は、文化庁のガイドラインである「国宝・重要文化財（建造物）等の防火対策ガイドライン」、「国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等のガイドライン」を指針として進めていきます。

### **(3)「文化財を活かす」に関する方針**

#### **①文化財の活用につながるイベント開催の充実**

文化財について学び、触れることのできるイベント・講座など既存のものを継続し、また開催できていない分野によってはそのような機会を創出し、その価値を伝え、町民の郷土への愛着や誇りの醸成、豊かな心を育みます。

#### **②ユニークベニューの推進**

佐々木家住宅や都合山たたら跡、黒坂城址・陣屋跡等の歴史的建造物や遺跡等を活用したイベントを開催して、文化財の活用と魅力発信を行います。

### **(4)「ともに継承活動に取り組む」に関する方針**

#### **①学校ふるさと教育に係る連携の強化**

学校教育において、文化財を積極的に活用したふるさと学習を実施し、生徒・児童が郷土に対する誇りや愛着を感じることができるよう、学校と教育委員会事務局文化財保護担当が定期的な連携をもって推進し、その内容を充実化していきます。

#### **②文化財関係団体・関係課の連携強化**

各事業やイベントを実施していくにあたり、役場関係課や地域団体等が連携するなど、多くの関係団体が関わりながら進めていきます。

#### **③地域や団体等とともに取り組む体制の強化**

行政の職員がその地域に出向き、文化財の所在や価値を共有するワークショップを開催して、文化財に親しみ、その価値を地域や団体、行政等が共有し、保存や環境整備などに対して、多くの人や団体に関わる総がかりで取り組む体制構築を図ります。

#### **④文化財保存活用地域計画の各事業の推進**

本計画を推進し、地域や地域団体と協力して進めていくために、教育委員会事務局の文化財保護担当者の他に、本計画専任職員の配置を検討します。担当者及び専任職員は地域や地域団体等と連携しながら計画内の各事業を進め、また計画進捗の管理などを行っていきます。

## **(5)「拠点となる場所をつくる」に関する方針**

### **①歴史民俗資料館の活用の推進**

歴史民俗資料館において定期的な企画展の開催を進め、町民が文化財や歴史文化を知るとともに、文化的な関心を深め、豊かな心を育むことのできる施設として活用を推進します。活用していくにあたり、適切な維持管理や修繕などを検討していきます。

### **②旧山陰合同銀行根雨支店の活用の推進**

旧山陰合同銀行根雨支店を文化財や各種観光情報を集積した空間として活用し、また文化財の所在地や関連する文化財から見えてくる本町の歴史文化を伝えるものとし、観光客の周遊につながるものとしていきます。その空間を利用して、地域団体のイベントの拠点としたり、希望者がミニ企画展示なども開催できるような「多目的フリースペース」として活用していくことを検討しています。活用にあたり、国登録有形文化財建造物として登録申請を行い、登録後に活用を前提とした耐震改修工事を実施していきます。